

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

「ながさき・しま自慢ネットワーク観光」による地域活性化計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

長崎県五島市、壱岐市、対馬市、南松浦郡新上五島町

3 地域再生計画の区域

長崎県五島市、壱岐市、対馬市及び南松浦郡新上五島町の全域

4 地域再生計画の目標

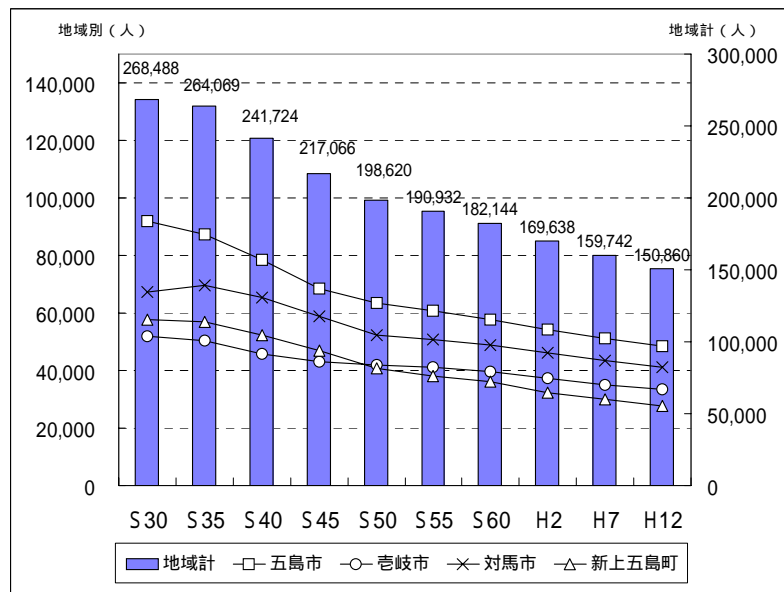
4 - 1 本地域の現状と課題

4 - 1 - 1 地域の現状と課題

長崎県には、無人島を含めると約600の島々があり、そのうち離島振興対策実施地域の指定を受けた有人島は55島あり約17万人が生活を営んでいる。これらの地域は、県人口の約1割強、県土の約4割を占めており本県の特徴を形成している。

五島市、壱岐市、対馬市、新上五島町（以下「本地域」と略）は、平成17年3月1日現在、人口約14万3千人と全離島の約80%の人口を占める県内の主要な離島である。本地域は、豊かな自然環境を基盤に農水産業を基幹産業として発展してきたが、本土地域と比べて環海性・隔絶性・狭小性といった離島の地理的特性から、生産消費両面でのコスト高という経済的な競争不利条件の下で、島内産業の沈滞、基盤整備の遅れ等本土との格差がもたらされており、これらに起因する人口減少(図表1)、高齢化の進行(図表2)、地場産業の低迷、雇用機会の少なさ等が大きな問題となっている。

図表1 人口推移



資料) 国勢調査

図表2 年齢三区分別人口構成比（平成16年10月1日現在）

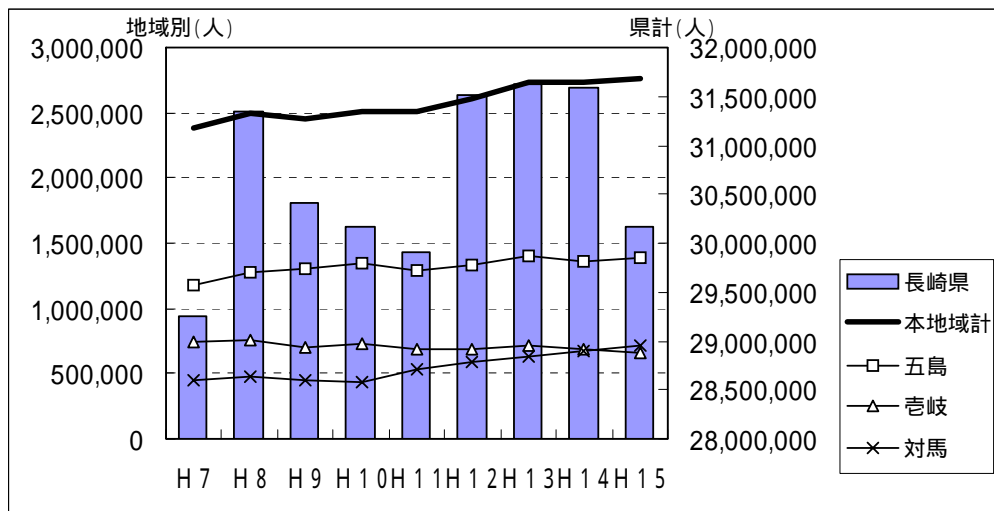
	県計	対馬市	壱岐市	五島市	新上五島町	地域計
0～14歳	14.9%	15.2%	15.3%	14.2%	15.0%	14.9%
15歳～64歳	62.2%	59.3%	55.5%	56.2%	56.7%	57.0%
65歳以上	22.9%	25.4%	29.2%	29.6%	28.3%	28.1%
年齢不詳	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

資料) 住民基本台帳

こうした中、地域活性化の起爆剤として期待されているのが観光産業である。本地域の観光客数（図表3）は、県全体が減少傾向にある中、壱岐では横ばい、五島及び対馬では増加傾向にあるなど、地域全体で見ると長引く景気低迷にも関わらず安定した増加傾向にある。また、観光消費額（図表4）は近年増加傾向にあり平成15年本地域合計で43,809百万円となっている。同年の観光消費額は製造品等出荷額の約2倍（県全体では0.2倍）にのぼるなど地域経済に与える影響も非常に大きく、地域住民にとっても雇用拡大面も含め観光産業に対する期待は大きいものとなっている。

近年、全国的にブルー・グリーンツーリズム等の体験型観光への関心が高まりをみせる中、水と緑の豊かな自然環境や特徴的な歴史文化が残されている本地域は、本土では味わえない魅力的な体験型観光の絶好の舞台である。こうした機会と観光資源を有効に活用した体験型観光の振興を図り交流人口を更に拡大させることが地域経済を発展させ最終的には地域全体の活性化に繋がるものと考えられる。

図表3 観光客数の推移（延数）

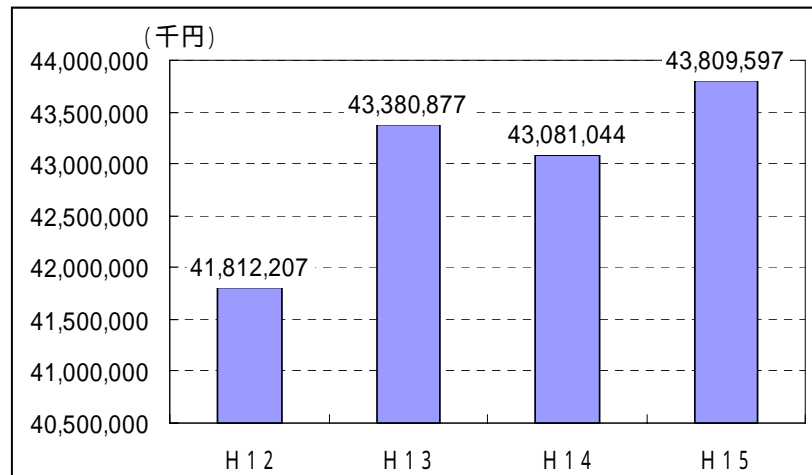


（単位：人）

	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15
長崎県	29,257,730	31,339,252	30,413,237	30,175,494	29,913,333	31,510,837	31,630,904	31,580,077	30,175,030
本地域計	2,383,995	2,497,308	2,446,948	2,508,930	2,505,835	2,610,068	2,739,897	2,734,819	2,767,127
五島	1,182,424	1,271,288	1,297,143	1,352,442	1,286,266	1,336,190	1,399,039	1,364,556	1,393,583
壱岐	746,648	751,616	696,243	726,375	689,826	689,901	708,786	693,410	659,260
対馬	454,923	474,404	453,562	430,113	529,743	583,977	632,072	676,853	714,284

資料) 長崎県統計年鑑

図表4 観光消費額の推移及び製造品等出荷額との比較
(本地域の観光消費額の推移)



(平成15年観光消費額と製造品等出荷額) (百万円)

地域	観光消費額	製造品等出荷額	/
長崎県	265,470	1,303,197	0.20
五島	20,164	7,862	2.56
壱岐	13,020	6,669	1.95
対馬	10,625	7,790	1.36
本地域計	43,809	22,321	1.96

資料) 平成15年観光統計、工業統計調査

4-1-2 観光振興に向けた取り組みと課題

近年、本地域では、観光振興を図るためソフト面を中心とした様々な事業(図表5、P12)を各自治体がそれぞれ主体的に行っており、その結果が現在の観光基盤の強化に繋がっている。しかし、長引く景気低迷に伴う厳しい財政状況下で、厳しい地域間競争に打ち勝ち更なる交流人口拡大(観光客の誘致・確保)を図るためには、現在にも増して費用対効果の高い効果的な観光振興策を展開する必要がある。

しかしながら、現在のような単独自治体での取り組みでは、独創性や斬新味といった点にやや欠けることは否めず(いわゆるマンネリ化状態)、観光ルートや体験型観光メニューについても“本地域ならではのもの”というような魅力的なものが多数存在しているとは言い難い。

こうした中で、他地域では味わえない本地域ならではの魅力的な観光振興を図るためには、五島、壱岐、対馬のそれぞれが“長崎の一離島”という概念を払拭し、3つの島を「体験型観光の一つの舞台」として位置づけ、広域的なネットワークの下で3つの島が一体となった新しい観光施策を展開することが費用対効果や独創性、斬新性からみて極めて効果的であると考えられる。

4 - 2 将来ビジョン

本計画は、五島、壱岐、対馬の3つの島を、体験型観光のひとつの舞台と位置づけ、それぞれの島が持つ特徴的な観光資源や観光メニュー・テーマの有機的なネットワークによる広域的な観光ルートや、ガイド付ツアーなどの新サービス等を開発・提供することで、一体的地域としての地域ブランドの創出を図り、地域としてのリピーター確保による観光客及び観光消費額の増大を目指すものである。

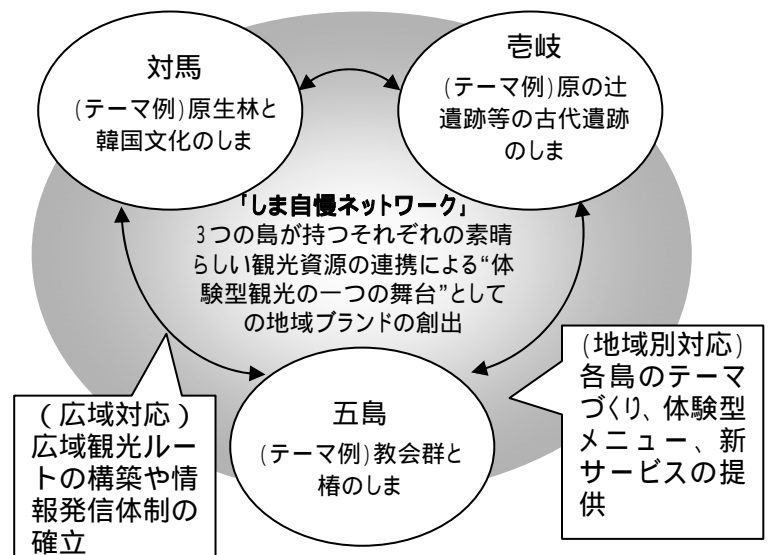
この結果、観光関連産業や地場産業を中心とした地域経済の活性化や観光業を中心とした雇用の創出等が進むことで、若者を中心とした人口流出の抑制が図られるとともに島民としての誇りの醸成が進むなど地域全体の活性化が期待される。

4 - 3 将来ビジョン達成のための課題

将来ビジョンで示した広域連携型の観光施策を展開するにあたっては、3つの島を結ぶ広域観光ルートや一体的情報発信ツール等の整備、質の高い観光ガイドの育成などによる地域ブランドの確立を目指すなどの「広域レベルでの対応」に加え、それぞれの島における魅力的な観光ルート・観光ツアーの開発や、観光ガイドサービス等のこれまでにない新サービスを構築・提供するなどの「地域レベルでの対応」を行うことが必要である（図表6）。

現在、本地域では、図表5（P12）で示したように上記の課題のうち、地域別での観光ルートや体験型観光メニューづくり等は行われているが、広域での対応などのそれ以外の課題に対する取り組みはほとんど行われていない。また、現在の観光ルートや体験型メニューも、他地域との差別化や顧客ターゲットに応じた設定など、更なる工夫が求められている。そこで、将来ビジョン達成のための課題を、広域連携に向けた課題と各地域の魅力的な観光メニューづくりのための課題の二つに分け、それぞれ以下のように設定する。

図表6 将来ビジョン達成のための課題



< 将来ビジョン達成のための課題 >

(広域連携による地域ブランドの創出等に向けた課題)

- ・ 広域連携型観光ルート等の開発
- ・ 広域連携型情報発信ツールの整備
- ・ 地域が一体となった質の高い観光ガイド等の育成
- ・ 回遊性強化のための各種割引サービス等の開発

(それぞれの島の魅力づくりに向けた課題)

- ・ 島の特色にあった魅力的な観光ルート・体験型観光メニューの開発
- ・ 観光ガイドやインストラクターサービス等の新たな観光サービスの開発

なお、計画期間終了後（平成 25 年）に目標達成状況を評価するための定量的な指標を以下のように掲げる。

課 題		定量的な指標	
		項目	数値目標
広域での 対応	広域連携型観光ルート等 の開発	広域観光ルート開発数	3 ルート
	広域連携型情報発信ツ ールの整備	専用ホームページの開設	1 サイト
		専用ホームページアクセス数	年間 1 万件 (延 8 万件)
	地域が一体となった質の 高い観光ガイド等の育成	観光ガイド育成数	60 人
		体験型観光インストラクター 育成数	90 人
回遊性強化のための各種 割引サービス等の開発	公共施設等の共通割引サービ ス数	1 商品	
地域別の 対応	魅力的な観光ルート・体 験型観光メニューの開発	観光ルート開発数	10 ルート
		体験型観光メニュー開発数	10 メニュー
		体験型観光参加者満足度 (顧客満足度調査等より)	満足度 70% 以上
	観光産業を中心とした雇 用機会の拡大	観光関連企業等への雇用数	324 人

5 目標を達成するために行う事業

5 - 1 全体の概要

五島、壱岐、対馬を“体験型観光のひとつの舞台”として位置づけ、地域ブランドの創出と新規観光客及びリピーター確保を実現するため、各島のテーマを明確にした広域観光ルート等を構築するとともに、体験型観光情報等を横断的且つ一体的に発信するホームページ等の情報発信体制の構築を行う。また、3つの島が一体となり、質の高い観光ガイドや体験型観光インストラクターを育成するほか、3つの島の回遊性強化のための各種割引サービス等の新サービスの創出を目指す。なお、育成する観光ガイドや体験型観光インストラクターは、企業雇用や独立開業などによる地域の新しい雇用モデルとなるようプロとしての育成カリキュラムを実施する。

また、一体的地域としての地域ブランド創出のためには、各地域における魅力的な観光サービスの提供が前提となることから、島の特性に応じた魅力的な観光ルート及び体験型観光メニューを開発するほか、観光ガイドや体験型観光インストラクターの派遣サービスを展開するなど新しい観光サービスの開発・提供を行う。

5 - 2 法第4章の特別の措置を適用して行う事業

該当なし

5 - 3 その他の事業

5 - 3 - 1 地域提案型雇用創造促進事業(パッケージ事業)(厚生労働省)【C0901】

(1) 実施主体

ながさき”しま自慢”観光人材育成協議会

(注)平成17年5月現在は「ながさき”しま自慢”観光人材育成協議会準備会」として活動中。
平成17年6月頃に協議会としての立ち上げを予定。

(参加団体)

五島市、五島市観光協会、福江商工会議所、壱岐市、壱岐観光協会、壱岐市商工会、壱岐名産品協会、対馬市、対馬観光物産協会、NPO「国境の島・つしまネットワーク」、対馬市商工会、新上五島町、新上五島町観光協会、新上五島町商工会、長崎県、観光連盟(予定含む)

(2) 実施期間

平成17年度から平成19年度の3ヵ年

(3) 事業目的と概要

前述の将来ビジョンでは、一体的地域としての地域ブランドの確立のほか、質の高い観光ガイド等の育成、各地域の特色にあった魅力的な観光ルート・体験型観光メニューの開発、観光ガイドやインストラクターサービス等の新たな観光サービスの提供による観光関連産業等の活性化や雇用機会の拡大等を掲げた。

特に近年では体験型観光のための“観光ガイドや体験型観光インストラクター”の必要性が無料・有料を問わず急激に高まっていることから、“観光ガイド業”が「雇用」の場となる可能性を秘めている。しかし、現行のガイド養成講座等ではボランティアガイドの域から脱することができず、ガイド業としての起業や民間企業に“プロガイド”として起用されるような人材の育成には至っていない。また、ガイドの斡旋やガイド付ツアーの企画実践、ニーズやマーケティングに基づく商品企画開発など、地元で対応すれば新規雇用につながる業務がノウハウや人材の不足から島外企業等に頼らざるを得ないため地元雇用に繋がっていない。そこで、地域提案型雇用創造促進事業（パッケージ事業）を利用し、地域内で実施している観光・産業振興及びボランティアガイド育成等の既存事業と連携し、地域の観光振興の請負人ともなる観光ガイドやコーディネーター等の人材育成を行い裾野の広い雇用の創出を図っていくものとする。なお、育成を目指す人材は、

「しま自慢プロガイド」

各地域で観光ガイド養成講座等を通じた人材育成を進めており、地域住民の意識啓発や担い手の裾野拡大としての一定の成果はあげているものの、実際の活動においては、ボランティアの域を出ず、スキルの向上が図られていないなどの課題が発生しているため、知識だけではなく、話術やエンターテイメント性を持った「プロガイド」の人材を育成する。

「しま自慢クリエイター」

各地域は、自然や歴史文化など、豊かで魅力ある地域資源に恵まれており、それらの観光への活用の可能性は大きい。しかし、人材不足や自社で人材育成を行うだけの体力やノウハウを持っていないなどの課題が発生しているため、観光（誘客）に関連する新商品開発や観光客の接客、ガイド斡旋、広報宣伝、他企業との連携・折衝等を行う人材（マーケティング、企画、折衝、調整等の能力を有する者）などを育成する。

「ブルー・グリーンツーリズムプロインストラクター」

農業・漁業体験観光は人気が高く、誘客拡大の柱として更なるメニュー開発やツアーの造成が期待されている。しかし、現状では、既存の漁家や農家などが「副業」として体験メニューを実施するケースが大部分であり、更なる拡大が難しい状況にあるなどの課題が発生しているため、ツーリズムの企画実践から、旅行代理店などと連携したツアー造成、民泊や産品加工販売まで対応できる“プロのブルー・グリーンツーリズムインストラクター”を育成する。

「観光リーダー」育成の必要性

体験型観光の拡大に伴い観光ガイドのニーズも拡大していくことが予想され、今後は、ガイドの斡旋やツアーの企画、民間旅行代理店などへの売り込み、情報発信、後進ガイドの育成などを、地域として戦略的に展開していくことが求められる。

そこで、地域が主体となった体験型観光の更なる発展と雇用創出を目指し、体験型観光の先導役やガイド業をコーディネートする「観光リーダー」を育成する。

(4) 支援措置を利用し実施する事業

1) しま自慢プロガイド等の候補者確保のためのスタートアップ事業の実施

本事業に地域求職者、Uターン希望者、民間企業等が多数参加するよう、事業の概要を説明するガイダンスを地域内外で実施する。具体的には、事業の周知を図るため事業PR用のパンフレット等を作成し、ボランティアガイド組織やガイド登録者、ブルー・グリーンツーリズム受入農家・漁家等の情報を活用し、広く参加者の募集を行うものとする。

2) しま自慢プロガイド等育成カリキュラム・テキスト作成

しま自慢プロガイド等を育成するカリキュラム及びテキスト作成を行う。

カリキュラムは、育成するしま自慢プロガイド等に共通する「共通編」、「コース編」及び「実践編」の三段階の構成とする。

「共通編」は有償・無償を問わず観光ガイドや体験型インストラクターに関心がある地域求職者を広く募集し、一流の接客術 話術 多様化する観光客ニーズと客層別対応術 マーケティング分析、旅行企画、旅程管理等 起業術などについて、週3回、2時間の講習を3週間実施する。

「コース編」は、共通編受講者のうちプロとして観光関連事業所に就職を目指す者や起業を目指す者を対象に、プロガイド クリエーター プロインストラクター 観光リーダーの各コース別編成として、マンツーマン形式で各コース5日間(20時間程度)の研修とする。

「実践編」は、しま自慢クリエイターの実践力の向上と民間企業とのマッチングを行うため、宿泊、交通、飲食等の観光関連事業所への派遣研修とする。

3) しま自慢プロガイド等育成研修の実施

2) で作成したカリキュラムに基づき、しま自慢プロガイド等を育成するための研修を実施する。

研修対象者は、各地域が実施している観光ガイド育成事業参加者をはじめ、ボランティアガイドの会(以下「ガイドの会」という。)及び観光協会が把握している観光ガイド、観光協会・NPO法人等に登録・確保している体験型インストラクター候補者等とする。

4) 企業派遣等による実践トレーニングの実施

しま自慢プロガイド等の育成の最終段階として、民間企業への派遣による実践トレーニングを行う。実践トレーニングは、各地域の観光協会、NPO、ボランティア団体等との連携により実施する。

5) インターネットによる情報発信体制の構築

就職情報、研修情報等を発信するインターネットホームページを開設・運営する。

5 - 3 - 2 関連事業

(1) 広域連携型観光ルート・観光ツアー等の観光商品の開発

五島、壱岐、対馬が、体験型観光のひとつの舞台として地域ブランドの創出を図るとともに、地域が一体となった観光客及びリピーターの誘客を図るため、3つの島のテーマを定めた広域的な観光ルート等の開発を行う。

テーマは、五島は「教会群と椿」、壱岐は「原の辻遺跡を中心とした古代遺跡」、対馬は「原生林と韓国文化」などを柱に定め、歴史系ルート（ツアー、以下同様）、自然体験ルート、味めぐりルートなどの設定を行う。なお、本ルートは、必ずしも一回の旅行で3離島を全て回ることを想定したものでなく、リピーター確保のための手段として有効活用を図ることを想定している。

(2) 広域連携型情報発信ツールの整備

五島、壱岐、対馬の観光情報を横断的且つ一体的に提供するホームページ等の情報発信ツールの整備を図る。

ホームページ等では、“体験型観光のひとつの舞台”としての魅力紹介をはじめ、地域毎の特性や見所、地域を跨いだ観光ツアー、移動手段等の情報発信を行うものとする。

(3) 回遊性の高い観光実現のための新サービスの開発

3つの離島の回遊性強化を図るためには、地域共通の交通割引サービス、観光施設や宿泊施設、飲食店などの割引サービスを設けるなど、本地域を訪れる観光客が地域内の他の離島を訪れたいくなるような仕掛けづくりが必要である。そのため、ICチップなどの高度情報機器等の利用も視野に入れた具体的なサービス開発及び提供を行う。

(4) 地域別観光ルート及び体験型観光メニュー開発

各地域の歴史文化や自然環境などの地域資源を最大限に活かした観光ルートや体験型観光メニューの開発を行う。

観光ルートは、既存ルートを活かしつつ、客層別（年齢や家族、カップルなど）や分野別（歴史系ルート、体験系ルート）の新しいルートを開発する。

体験型観光メニューは、既存メニューを活かしつつ、前述したプロの観光ガイドや体験型観光インストラクターと連携したガイド付ツアーや体験型観光ツアー等を開発する。

なお、新しい観光ルートや体験型観光メニューは、顧客ニーズに応じた開発が必要

であるため、本格的な販売・公開以前の段階で旅行代理店やメディア関係者を招いたモニターツアー等を実施し、ルート及びツアーの有効性を検証するものとする。

6 計画期間

平成17年度から平成24年度

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 雇用数等の統計調査

目標達成状況を評価する数値目標として掲げた観光関連企業等への雇用数を把握・評価するため、計画期間終了後にハローワークや観光関連企業等に対する聞き取り調査やアンケート調査等を実施する。

7-2 地域別顧客満足度調査

本計画で開発する新しい観光ルートや体験型観光メニューに対する観光客の評価を定量的に把握するために、各地域で共通内容の顧客満足度調査を実施する。

7-3 モニターツアーによる評価

本計画で開発する新しい観光ルートや体験型観光メニューに対する観光客の評価を定量的に把握するために、各地域でモニターツアーを開催する。

8 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項

該当無し

図表 5 平成 12 年度以降の各地域での観光振興の取り組み

事業名	事業主体
五島市・新上五島町	
観光ガイドの育成事業	五島市観光協会
「五島市ふるさとガイドの会」の設立	五島市観光協会
平成 15 年度観光ボランティアガイド育成講座	長崎県観光連盟
平成 15 年度長崎魅力再発見事業	長崎県観光連盟、県観光課
五島地域観光地づくりプロデューサー事業	五島観光連盟
五島地域新観光商品開発・宣伝事業	五島観光連盟
五島つばき祭の開催	五島つばき祭実行委員会
上五島体験観光受入体制整備事業	上五島広域観光協会
体験観光メニュー高度化事業	五島市観光協会
マザーアイランド五島列島大自然フェスタ	下五島観光活性化協議会
同上大自然フォトコンテストツアー	上五島広域観光協会
五島ウィーク in 福岡	五島観光連盟
五島の冬紀行	福江市観光協会
冬の五島グルメ観光推進事業	五島うまかピア実行委員会
大都市圏誘客促進事業	福江市観光協会
三井楽万葉まつり	同実行委員会
アイアンマンジャパントライアスロン五島長崎	同地元実行委員会
有川町体験観光推進事業	有川町
蛤浜観光魅力発信事業	有川町
体験観光学習開発事業	富江町観光協会
都市圏観光誘致促進事業	下五島地域広域圏組合
岐宿町観光情報システム整備事業	岐宿町
上五島町観光情報システム整備事業	上五島町
上五島町かっぱ村観光魅力創出事業	上五島町
若松町観光交流基盤整備事業	若松町
奈良尾町観光施設等整備事業	奈良尾町
奈良尾町交通アクセス拠点魅力創出事業	奈良尾町
キャンプ村バンガロー建設事業	富江町
五島地域観光資源創出・活用事業	五島観光連盟
新上五島町観光協会アクションプラン策定事業	上五島広域観光協会
奈留町体験観光推進事業	奈留町
五島市快適・清潔トイレ整備事業	五島市
(広域)ながさき「しま」誘客促進事業	同実行委員会

事業名	事業主体
太陽の島五島フェスティバル(タヤケマラソン)	同実行委員会
五島つばき祭	同実行委員会
鬼岳で遊ぼう自然公園大会	五島市、五島市観光協会
宣伝隊派遣事業(一般観光、修学旅行)	五島市観光協会
長崎五島ソーデーマーチ	同実行委員会
魚津ヶ崎公園花いっぱい事業	五島市
富江半島ブルーライン健康ウォーク大会	五島市
グリーングリーンデーin 三井楽	同実行委員会
夕陽鑑賞会	同実行委員会
ぎょうが崎漁火祭	同実行委員会
三井楽万葉まつり	同実行委員会
カヌー体験・サンドクリエート・漁火フィッシング事業	玉之浦町商工会
嵯峨島体感ウォーク	同実行委員会
荒川温泉まつり	同実行委員会
トライアスロンin五島列島	同実行委員会
蛤浜で遊ぼデー	有川町観光協会
定置網朝食会	有川町観光協会
かんころ餅体験	有川町観光協会
若松瀬戸磯釣り大会	若松町観光協会
サマーフェスティバルin若松	同実行委員会
岩屋観音まつり	新上五島町観光協会
イベント公園電飾	奈良尾町観光協会
海水浴大会	奈良尾町観光協会
桜まつり	奈良尾町観光協会
奈良尾温泉センター改修工事	新上五島町
壱岐市	
体験型観光推進事業	壱岐観光協会
一支國歴史発見事業	一支國研究会
島めぐりガイドマップ作成事業	壱岐郡町村会
観光地音声ガイド設置事業	壱岐郡町村会
郷ノ浦町公衆便所設置整備事業	郷ノ浦町
観光宣伝隊事業	壱岐観光協会
弘安の役観光案内板設置事業	芦辺町
マスメディア活用宣伝事業	壱岐観光協会
壱岐地域観光プロデュース事業	壱岐観光協会
磯場観光資源開発事業	勝本町観光協会

事業名	事業主体
郷ノ浦町公衆トイレ整備事業	郷ノ浦町
芦辺町公衆便所施設整備事業	芦辺町
筒城浜ふれあい広場施設整備事業	石田町
壱岐の新しい踊り創作展開事業	壱岐郡町村会
体験総合学習館整備事業	郷ノ浦町
黒崎砲台跡魅力アップ事業	郷ノ浦町
芦辺町快適・清潔トイレ整備事業	芦辺町
筒城浜ふれあい広場魅力アップ事業	石田町
新壱州おけさを活用した観光交流促進事業	壱岐郡町村会
体験型観光推進事業	壱岐観光協会
「ITアイランド・モバイル化構想」事業	壱岐観光協会
効果的なマスコミ活用広報事業	壱岐観光協会
観光客誘致促進事業	壱岐観光協会
郷ノ浦町快適・清潔トイレ整備事業	壱岐市
筒城浜ふれあい広場魅力アップ事業	壱岐市
磯あそび体験施設整備事業	壱岐市
新壱州おけさ観光交流促進事業	壱岐市
一支國歴史発見事業	一支國研究会
対馬市	
対馬観光物産協会における観光ガイド養成事業等	対馬観光物産協会
観光客誘致対策事業	対馬観光物産協会
観光客誘致対策事業	対馬観光物産協会
観光客誘致対策事業	対馬観光物産協会
対馬地域観光客誘致推進事業	対馬観光物産協会
体験型観光メニュー開発事業	対馬観光物産協会
対馬市観光情報システム整備事業	対馬市
神話の里自然公園整備事業	対馬市
対馬アヒラン祭	対馬市
朝鮮通信使行列	対馬市
国境マラソンIN対馬	対馬市

資料) 壱岐市、対馬市、五島市、新上五島町調べ

(参考) 各地域の現状

対馬の概要

対馬は九州最北端、韓国・釜山まで49.5 km に位置する南北82 km、東西18 km の細長い島で、佐渡島、奄美大島に次いで日本で3番目に大きな島である。



本地域は「対馬島」人口41,016人、面積697.13 km² を中心に海栗島、泊島、赤島、沖ノ島、島山島の有人島6島からなり、全体で人口41,230人、総面積708.47 km² となっている。行政2区は6町よりとなっているが、平成16年3月1日に6町が合併し、対馬市となる。

対馬島は全島の89%が森林で占められ、国の天然記念物に指定されている原始林も残っている。島の地形は標高200m～300mの山々が海岸まで迫り、海岸では所により高さ100mに及ぶ断崖絶壁を呈している。対馬中央部の浅茅湾は、リアス式海岸の特徴を顕著に表した対馬の代表的な景勝地の一つであり、これらの景勝地は壱岐対馬国定公園に指定されている。

国の天然記念物であるツシマヤマネコをはじめ、対馬でしか見ることのできない生物や、大陸の流れをくむ生物が数多く生息する。また、渡り鳥の中継地であることから、世界でも有数の野鳥観察地とされている。

古代より対馬は、大陸から石器文化、青銅器文化、稲作、仏教、漢字などをわが国に伝える窓口としての役割を果たし、また朝鮮半島との間では人的、物的交流が盛んに行われた。江戸時代に入り、幕府は対馬藩十万石の藩主・宗家を介して朝鮮から通信使を迎え入れ、厳原町は宗家の城下町として栄えた。

(参考) 主な観光資源

<p><自然系> 豆酩崎、竜良山原始林、上見坂展望台、白嶽、烏帽子岳展望台、綱島、野鳥の森、青海の里、千俵薪山、御嶽、異国の見える丘展望台、網代の漣痕、琴の大銀杏、鱈浦のヒトツバタゴ、鳴滝</p>	<p><歴史文化系> 万松院、お船江、石屋根、武家屋敷、万関橋、金田城跡、和多都美神社、猪垣、円通寺、天神多久頭魂神社、対馬野生生物保護センター、志多留風景、豊砲台跡、朝鮮国訳官使殉難之碑、朝日山古墳</p>
 <p>(豆酩崎)</p>	 <p>(武家屋敷)</p>

資料) 県離島振興計、対馬市ホームページ

壱岐の概要

壱岐は福岡県と長崎県対馬の中間地点に位置し、南北約17km、東西約15km、面積137.67km²で玄界灘・対馬海峡に面している。2壱岐島、大島、長島、原島、若宮島、妻ヶ島の6つの有人島と、16の無人島で構成されている。壱岐は、一般に丘陵性の台地をなし、最高峰「岳の辻」が213mであり、なだらかな広がりを見せる平坦な島である。東部の幡鉾川下流には、県下でも有数の平野が広がっている。

壱岐は海岸と丘陵部分の自然景観に恵まれ昭和43年には「壱岐対馬国定公園、また昭和53年には「海中自然公園」に指定されている。

気候は、対馬暖流の影響を受けておおむね温暖な海洋性気候であり年間降水量は全国的にも多い方に属する。

本地域の人口は平成12年国勢調査では33,538人となっており人口減少が著しく、また、高齢化も急速に進んでいる。

壱岐は、中国の歴史書『魏志倭人伝』に一支國として書かれているように、古くから大陸文化の中継地として重要な役割を持っており、国特別史跡指定の「原の辻遺跡、国指定史跡の「勝本城跡」をはじめとして、県下に類を見ない巨石古墳群など、貴重な歴史遺産が、古代から近代に至るまで数多い。

(参考) 主な観光資源

<p>< 自然系 > 岳ノ辻、辰ノ島海浜植物群落、ツインズビーチ、壱岐芦辺風力発電所、鬼の足跡、清石海水浴場、猿岩、左京鼻、六郎瀬鼻、長者原化石層、串山海水浴場、青嶋公園のハマユウ、辰ノ島、筒城浜</p>	<p>< 歴史文化系 > 原の辻遺跡、春一番の塔、元寇の碇、黒崎砲台跡、国分寺跡、鬼の窟古墳、掛木古墳、万葉公園、勝本城跡、小松と作助の墓、文永の役新城古戦場</p>
 <p>(ツインズビーチ)</p>	 <p>(原の辻遺跡：国特別史跡)</p>

資料) 県離島振興計、壱岐市ホームページ

五島の概要

五島列島地域は、九州の西端に位置し、長崎港から西方約100kmの東海に西南から東北へおよそ80kmにわたって島々が連なっている。

上五島地域（新上五島町）は、五島列島の北部、中通島・若松島など7つの有人島と60の無人島から構成されており、人口は27,559人、面積は206.75km²である。

下五島地域（五島市）は、五島列島の南西部、福江島・奈留島・久賀島など11の有人島と52の無人島から構成されており、人口は48,533人、総面積は407.63km²である。

五島列島地域は比較的平坦な福江島を除いて地形は極めて複雑で海岸線は屈曲に富んでおり、海と山が織りなす美しい自然景観により西海国立公園に指定されている。

気候は、対馬暖流の影響を受けて温暖な海洋性気候である。東海を隔てて中国大陸と接する本地域は、奈良・平安時代に、遣唐使船の日本最後の寄港地となるなど、大陸交流の拠点となった。また、江戸時代には、キリシタンが新天地を求めて移住した地でもある。このような歴史のなかで地域内には教会や寺社をはじめとして多くの歴史的文化的遺産が残っており、また、様々な郷土芸能や伝統行事等が継承され、独特の地域文化を形成している。

（参考）主な観光資源

<p><自然系></p> <p>椿原生林、高浜海水浴場、鬼岳、高崎草原、香珠子ビーチ、白良ヶ浜万葉公園、鐙瀬熔岩海岸、魚津ヶ崎公園、福江海中公園、城岳展望台、鬼岳温泉、ドンドン淵、岐宿コスモス、浜田海水浴場、大瀬崎断崖、小浦海水浴場（以上、五島市）</p> <p>一二三の滝、若松大橋、赤ダキ断崖、小手ノ浦湾、相河川、若松瀬戸、漁生浦橋、大川、ならお大橋、頭ヶ島大橋、芦山の滝、番岳（遠見番所跡）、矢倉岳展望台、鯨見山展望所（以上、新上五島町）</p>	<p><歴史文化系> 教会のみ掲載</p> <p>嵯峨島教会、三井楽教会、貝津教会、打折教会、井持浦教会、玉之浦教会、水ノ浦教会、楠原教会、宮原教会、浦頭教会、堂崎教会、福江教会、半泊教会、繁敷教会、浜脇教会、江上教会、（以上、五島市）</p> <p>青砂ヶ浦教会、頭ヶ島教会、鯛ノ浦天主堂ルルド、大曾教会、中ノ浦教会、青方教会、浜串教会、江袋教会、土井ノ浦教会、桐教会、跡次教会、冷水教会、鯛ノ浦教会（以上、新上五島町）</p>
 <p>（高浜海水浴場）</p>	 <p>（青砂ヶ浦教会<国指定重要文化財>）</p>

資料) 県離島振興計画、五島市、上五島町ホームページ

(参考) 各地域の体験型観光メニュー一覧

自然体験コース

地 域	講 座 名
五島	クルージング、大瀬崎クルージング、無人島体験、シーカヤックで海へこぎだそう、潮騒の中で体験学習、親子で楽しむ秋の一日、親子たこ作り教室、竹の子島(無人島)サバイバル、潮干狩り、磯遊び、竹炭づくり、海中展望台
壱岐	シーカヤック無人島体験、体験宿泊ファミリープラン、漁業体験とマリンスポーツ、グラスボート、海と一緒に泳ごう、磯遊び in 勝本、イルカとのふれあい、かつもとイルカパークインストラクター体験
対馬	アカハラダカ観察、必見対馬の自然(遊覧船観光)

漁体験コース

地 域	講 座 名
五島	観光地引網、すけ漁、漁り火フィッシング、つかみどり、船釣り体験、定置網体験、魚市場見学
壱岐	筏で釣り体験、地引網体験、刺し網体験、磯釣り体験、定置網体験、船釣り体験、つば網体験、仕掛け網曳き体験
対馬	定置網漁業体験

農業体験コース

地 域	講 座 名
五島	アスパラガス収穫体験
壱岐	稲作体験、芋ほり体験、みかん・いちご狩り体験
対馬	芋ほり体験、しいたけ収穫体験

資料) ながさきしまの魅力体験講座